

当てよう!
道産品!
裏表紙をチェック! >>>>

2017年
8月号
平成29年7月発行
通巻221号



【特集】備えよう! 万一のためにできること

「まさか」を繰り返さないために、 一人一人ができることを。 日頃の心構えと備えが大切です。

いざというときに命と暮らしを守るために、
家庭や地域で、防災についてできることを進めましょう。



大切な命を守るため、
できることから
取り組んでいきましょう。

北海道知事 北郷 博之

- た** (台風) たいふうは きゅうに あめが じょうなる
- す** (避難) ひなんし! すぐに ぎげんを しらす 「ひなんし」
- き** (避難) きまぐちの おしらせを あえるばしよ
- あ** (あめ) あめのあと かわは ぞうすい ちかづくな
- こ** (こえ) こえかけて いっしょに にげよう ひなんばしよ

防災教育に役立つ「北海Do防災かるた」
企画・製作 (一財)日本気象協会 北海道支社
商標登録出願中

「まさか」と感じた大雨災害から一年

昨年大雨災害から、約1年が経過しようとしています。
北海道では昨年8月から9月にかけて、台風や低気圧、前線の影響により、各地で繰り返し大雨に見舞われました。特に、8月30、31日には台風10号の影響で、上川・十勝地方を中心に記録的な大雨となり、河川の氾濫や土砂災害により、道路の崩落、橋梁の落下など、甚大な被害を受けました。



清水町石山橋付近(平成28年8月)

「まさかあの川が氾濫するとは」「まさか避難することになるとは」などの声が被災地域で多く聞かれたように、北海道では台風はめったに上陸せず、長い間、大きな水害を経験してこなかったことから、水害に対する警戒心は弱く、避難行動などへの心構えや備えも十分とはいえません。

しかし、近年の気候変動により、北海道でも局地的に激しい雨の降る頻度が増えてきており、昨年のように1週間で3つの台風が上陸するなどの事態も、二度と起きないとはいえません。「まさか」と感じるような大雨が、再び北海道を襲う恐れがあるのです。



十勝発・災害復旧レポート

平成25年に入庁し、土木技術者として5年目。初任地の後志総合振興局では道路事業に携わっていましたが、ことし1月、大雨災害で被害の大きかった十勝に異動し、河川施設災害の復旧作業に従事しています。

当課が所管しているのは、帯広市など1市6町1村で、河川においては約140カ所の災害復旧工事を実施します。決壊し

災害を教訓として「まさか」に備える

北海道防災会議は、昨年10月に学識経験者や防災関係機関などで構成する「災害検証委員会」を設置し、大雨災害をさまざまな視点から検証しました。そして、この災害の教訓を今後の防災・減災に生かすため、防災訓練・研修を通じて防災担当職員のレベルアップや関係機関の連携強化を図るとともに、「北海道災害ボランティアセンター」を常設するなどの取り組みを進めています。

また、道民の皆さん一人一人が、災害に対する意識を高め、日頃から家庭や地域で防災について話し合い、備えることが大切です。

災害はいつやってくるかわかりません。しっかり備えることで、気持ちに余裕が生まれ、自らの命を守り、大切な人を助けることにもつながります。いざというときに「まさか」と思うことがないように、できることから取り組んでいきましょう。

- 洪水や土砂災害など、住んでいる地域の危険ポイントを把握しておきましょう。
- 「避難勧告」などの避難情報や気象情報の意味を正しく理解し、危険が予想されている場合は、安全な場所へ早めに避難しましょう。
- 避難所での暮らしを想像し、必要なものを用意しておきましょう。

クイズ! 北海道の日

「道民育児の日」は、
毎月何日?



答えは中面下に▶



復旧工事に立ち会う様子

